

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**鹿島建設(株)博多駅前四丁目土地 開発計画**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>			<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.5</b>	0.15			<b>3.5</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>		
1.2 遮音				<b>3.8</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		サッシ遮音性能 T-2		5.0	0.60	3.0		
2 界壁遮音性能				2.0	0.40	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0		
1.3 吸音		2面吸音 (床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板)		<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.1</b>	0.35			<b>3.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50			
1 室温				3.0	0.38	3.0		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0		
3 ゾーン別制御性		3管式 ゾーン別冷暖選択可能		4.0	0.38			
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25			<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30			
1 昼光率				1.0	0.60	3.0		
2 方位別開口					-	3.0		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30			
1 昼光制御		ブラインド+庇にて昼光制御		4.0	1.00	3.0		
3.3 照度		全般照明方式で照度が500lx以上1000lx未満		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.1</b>	0.25			<b>4.1</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		床・壁・天井・天井裏 すべて F☆☆☆☆		5.0	1.00	3.0		
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30			
1 換気量		30m <sup>3</sup> /h/人を採用		4.0	0.33	3.0		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50			
2 喫煙の制御				3.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.7</b>	0.40			<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性				1.0	0.33	3.0		
2 高度情報通信設備対応		コンセント容量60VA/m <sup>2</sup> 複数通信事業者引込ルート		4.0	0.33	3.0		
3 バリアフリー計画		移動円滑化誘導基準適合		4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				<b>4.3</b>	0.30			
1 広さ感・景観		事務室天井高 2.9m		5.0	0.33	3.0		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33			
3 内装計画		取組み4項目 (コンセプト、機能、照明、事前検証)		5.0	0.33			
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		取組み8項目 (トイレ壁面に化粧シートを採用 ほか)		4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		取組み8項目 (専用部以外の設備は共用部から維持管理 ほか)		4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.4</b>	0.30			<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.2</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外装カーテンウォール:40年		5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床タイルカーペット:20年、壁EP塗装:20年		5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクト:ガルバリウム鋼板		5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(B種PEP)、再生水(B種PEP)、排水(B種VP)		5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				<b>3.6</b>	0.20			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		取組4つ(①節水器具③BCP排水槽⑤中水⑦緊急蛇口)		5.0	0.20			
3 電気設備		取組3つ(①非発②屋上CUB③引込二重化)		4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高 4.40m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.24(1階)、0.14(2-9階)	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		事務室荷重 床・小梁用のみ5000N/m2(HDZ:1000N/m2)	<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		取組み10pt (緑の量の確保 ほか)	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		取組み4pt (公園からの良好な景観 ほか)	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI]: 0.98	<b>2.6</b>	0.20	-	-	<b>2.6</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.69	<b>4.1</b>	0.50	-	-	<b>4.1</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
<b>1.1 節水</b>		福岡市認定節水器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水(中水)利用有	4.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.1</b>	0.60	-	-	<b>4.1</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		鉄骨小梁への電炉材の適用、基礎・基礎梁への高炉セメントの適用	5.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		タイルカーペット(床)、岩綿吸音板(天井)、ビニル床シート(床)	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		取組み2項目 (躯体と仕上の分離、フリーアクセスフロア)	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		対象建材4項目 (接着剤、シーリング材)	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP(100年値)が1以下の製品を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率は参照値に対して75.4%	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器を不使用。空調及び給湯共にオール電化採用。	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	取組み4pt (駐車場の出入口を分離 ほか)	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	